

古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」 2020 年度第 5 回 報告書

開催日 2020 年 8 月 29 日(土) 読書会 9 時半～12 時

開催場所 Zoom にて開催

参加者 8 名(会員 7 名, 他 1 名)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)朗読

阿部國治著・栗山要編「第三集 少彦名 (すくなさま)」より「すくなさま」「おまつり」を、Zoom を用いて全員で順番に輪読

(3)読後感

- 大国主命には欠けていて、少な様が持っているのは、姿が見えない程で名前も捨てていること。大国主命は少な様のお供となって仕事をし、自分も人々も満足させることができた。ここが大変奥深かった
- 名前を捨てて仕事をするこの意義において、本当の良い仕事は、人の私心や頑張りではなく天地の恵みがもとで出来ている、という考え方と、土木の仕事が重なった
- 「おまつり」では「真の信仰は己の中にある『おひかり』を祀ること」ということに考えさせられた
- 日々の心がけ、会社に居る時の気持ちなどに対し大いに参考になった
- 「小さな見えないものを信じる」というところが学びとなった。コロナの影響でものの考え方が様々に変わってきており色々なことに目を向けないと、と感じているなか、何かを信じることは大切であり、信じていたい、と感じた。信仰的な話になってきたと感じる
- 感謝されないのに、人のために仕事をする、というところが凄いと思った
- 少な様については、まさに土木屋の章だと思った。30 周年で掲げた「技術と命」と重なるところが多かった。自分の力ではなく、というところが青山士などの土木偉人と重なる
- 信仰を持ち、優しい気持ちになるのは日本人だからこそというところもあるのでは。好きな章であり、これからも名前の無い仕事をしていきたい、少な様のように生きたいということが人生の目標
- 「少な様」は身近に感じたが「おまつり」は新鮮だった。「自分の心の中の光」というところにまだ入り込めなかったので今後も読んで深めたい
- 大国主命が神社を造った大和の御諸山とは、奈良県の三輪山で霊気の山・パワースポットとして有名

【次回予定】

2020 年 9 月 26 日(土)9 時半～11 時半。次回も Zoom を予定

■参加申込方法：開催日前日正午までに、下記必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】 所属支部、氏名、緊急連絡先(携帯)

【申込先】 reading-circle@womencivilengineers.com (担当：小林)



ZOOM での読書会の様子

以上